

NAR
GRANDPRIX
2022
COMMENDATION CEREMONY



NAR
GRANDPRIX
2022
COMMENDATION CEREMONY

©The National Association of Racing



NARグランプリ2022 表彰部門

NARグランプリ2022は、2022年に地方競馬で活躍した人、馬及び地方競馬の発展に顕著な功績があった人、馬を選定し、その栄誉を称えるものです。

◆ 年度代表馬	
◆ 4歳以上最優秀牡馬	
◆ 最優秀短距離馬	イグナイター(兵庫) 3-4
◆ 2歳最優秀牡馬	ヒーローコール(浦和) 5
◆ 2歳最優秀牝馬	メイドイットママ(船橋) 6
◆ 3歳最優秀牡馬	シルトブレ(北海道) 7
◆ 3歳最優秀牝馬	スピーディキック(浦和) 8
◆ 4歳以上最優秀牝馬	サルサディオーネ(大井) 9
◆ ばんえい最優秀馬	メジロゴロキ(ばんえい) 10
◆ ダートグレード競走特別賞馬	ショウナンナデシコ(JRA) 11
◆ 特別表彰馬	オメガバフェーム(JRA) 12
◆ 最優秀勝利回数調教師賞	打越 勇児(高知) 13
◆ 最優秀賞金取得調教師賞	小久保 智(浦和) 14
◆ 最優秀勝率調教師賞	保利 良平(兵庫) 15
◆ 最優秀勝利回数騎手賞	吉村 智洋(兵庫) 16
◆ 最優秀賞金取得騎手賞	矢野 貴之(大井) 17
◆ 最優秀勝率騎手賞	宮川 実(高知) 18
◆ 優秀新人騎手賞	塚本 征吾(愛知) 19
◆ 優秀女性騎手賞	宮下 瞳(愛知) 20
◆ ベストフェアプレイ賞 2022地方競馬ジョッキーズチャンピオンシップ優勝者	岡部 誠(愛知) 21
◆ 特別賞	戸部 尚実(愛知) 22
	佐々木 竹見 23-24
◆ 各地の優秀者	25
◆ NARグランプリ2022優秀馬選定委員会 選定委員	26

写真提供：愛知県競馬組合、兵庫県競馬組合、高知県競馬組合、いちかんぽ、NAR

ご挨拶



本日、「NARグランプリ」に皆様をお招きし、表彰式典を挙げていくことを誠に喜ばしく存じます。「NARグランプリ」は、地方競馬の「全国表彰」として1990年に創設され、本年で33回目を数える地方競馬の一大行事となりました。これまでのご支援に関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

全国各地の競馬場で輝かしい活躍をされた方々をお迎えして毎年開催しております「NARグランプリ」ですが、新型コロナウイルス感染拡大にかかる社会情勢に鑑み、一昨年に続き昨年表彰式及び祝賀会の開催を取り止める決断をいたしました。年間を通じて素晴らしい成績を収められ、各賞を受賞された関係者の方には、改めてお詫び申し上げます。

本年の開催におきましても、多くの来賓の皆様をご招待して開催すべきところですが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことから、規模を縮小し最大限の感染対策を徹底した上で実施することといたしました。

この状況の中、「NARグランプリ2022」表彰の選定にご尽力いただいた委員の皆様を始め、お客様へ広く発信していただいておりますマスコミ等関係の方々に、厚く御礼申し上げます。

2022年の地方競馬は、コロナ禍による競馬場への入場制限や場外発売施設の利用制限など、お客様に多大なご不便をおかけしたにもかかわらず、インターネットによる投票を中心として、多くの皆様に地方競馬に参加していただきました。この結果、開催成績につきましては前年を大きく上回ることができ、年間としては過去最高の発売成績を収めることができました。これもひとえにお客様の温かいご支援の賜物と深く感謝しております。

地方競馬所属馬の活躍を振り返りますと、イグナイター(兵庫)がダートグレード競走を連勝し、兵庫所属馬としては1996年(ケイエスヨシゼン)以来の年度代表馬の座に輝きました。一方、牝馬ではサルサディオーネ(大井)が牡馬相手にさきたま杯(JpnⅡ)を制するなど年間を通じて活躍し、3年連続で4歳以上最優秀牝馬のタイトルを獲得しました。

2023年は、よりいっそう魅力ある競馬を安心して楽しんでいただくことを目指して取り組んでまいります。具体的には、昨年発表いたしました3歳ダート三冠をはじめとした全日本的なダート競走の体系整備が、本年の2歳競走体系を皮切りに始まります。このことにより、日本のダート競走の価値は飛躍的に高まるものと確信しておりますので、その実現に向けて主催者や日本中央競馬会と連携して「強い馬づくり計画」を推進し、これまで以上に魅力的なレースをお届けしてまいります。

今後も、地方競馬の宝である卓越した技術を持つ騎手たちや、地方・中央のトップホースが競い合うダート競走の魅力をもっと多くのお客様に広めるとともに、地域に根差した地方競馬の特色を活かし、多くのお客様にさらに地方競馬を安心して楽しんでいただけるよう、主催者とともに、一層努めてまいります。

さて、本日、お集まりいただいた皆様は、2022年に優秀な成績を収められ、あるいは、地方競馬の発展に功績のあった栄えある受賞者でございます。皆様に対しましては、心よりお祝いを申し上げますとともに、深く敬意を表するものです。

結びにあたり、ご列席の皆様並びにファンの皆様には、引き続き地方競馬に温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

令和5年2月16日

NAR地方競馬全国協会 理事長 **伊藤 弘**



NAR
GRANDPRIX
2022
COMMENDATION CEREMONY
年度代表馬

4歳以上
最優秀
牡馬
NAR GRANDPRIX

最優秀
短距離馬
NAR GRANDPRIX

イグナイター
(兵庫)

- ◆ 2018年4月13日生まれ 牡 鹿毛
- ◆ 2022年成績：6戦3勝
- ◆ 2022年取得賞金：72,000,000円
- ◆ 主な成績：黒船賞(JpnⅢ)1着
かきつばた記念(JpnⅢ)1着
黒潮スプリンターズカップ1着
- ◆ 馬主：野田 善己氏
- ◆ 調教師：新子 雅司
- ◆ 生産牧場：春木ファーム

エスポワールシチー 栗毛 2005	ゴールドアリュール エミネントシチー
ピアノコ 鹿毛 2000	ウォーニング(GB) ブラデシュ(GB)

2022.5.3 かきつばた記念(JpnⅢ)

遠征で掴んだ2つのタイトル 兵庫に年度代表馬の栄冠

前年3歳時、年末の兵庫ゴールドトロフィー(JpnⅢ)で3着に好走したイグナイターは、4歳になった2022年、その素質が開花した。まずは高知の黒船賞(JpnⅢ)を目標に定めると、トライアルの黒潮スプリンターズカップを7馬身差で圧勝。そして臨んだ黒船賞(JpnⅢ)は4コーナーで先行馬群の内を選択して抜け出し、ダートグレード競走初勝利。続いて遠征したかきつばた記念(JpnⅢ)は、新・名古屋競馬場オープンから1カ月という時期で、その開催は内枠不利という馬場傾向で1番枠という試練。しかし田中学騎手はスタート後の直線で先行勢をさばいて外に持ち出

すと、最後の直線では中央勢との追い比べから抜け出しダートグレード連勝。秋はさらに上のステージを目指し盛岡に遠征。マイルチャンピオンシップ南部杯(JpnI)は僅差の4着、JBCスプリント(JpnI)は5着。勝ちに行った関係者には悔しい結果だが、2度の長距離輸送とともに地方馬最先着。この年、地方馬で複数のダートグレード競走を制したのは唯一で、1年を通して期待の中心にありつづけた。



2022.3.16 黒船賞(JpnⅢ)



2022.10.10 マイルチャンピオンシップ南部杯(JpnI)



ヒーローコール (浦和)

Hero Call

- ◆ 2020年5月2日生まれ 牡 黒鹿毛
- ◆ 2022年成績 / 7戦5勝
- ◆ 2022年取得賞金 / 34,180,000円
- ◆ 主な成績 / 全日本2歳優駿(JpnI)4着、鎌倉記念1着
- ◆ 馬主 / 山口 裕介氏
- ◆ 調教師 / 小久保 智
- ◆ 生産牧場 / 坂本 春雄氏

ホッコータルマエ 鹿毛 2009	キングカメハメハ マダムチェロキー
アインライツ 黒鹿毛 2001	ティンバーカントリー(USA) セレクトレモン

浦和の新馬戦を制したヒーローコールは、早くから全日本2歳優駿(JpnI)を見据え3戦目から川崎に遠征。シャイニングスター賞を大差で圧勝し、続くシャイニングヒーロー賞とJRA認定競走を連勝。鎌倉記念トライアルの若武者賞も6馬身差で圧勝した。ホッカイドウ競馬からの遠征馬を迎えた鎌倉記念は、イノセントカップ(門別)まで3戦3勝のスペシャルエックスが主導権をとると、ヒーローコールは早めその直後でプレッシャーをかけた。直線2頭の一騎打ちでは、相手を競り落としたヒーローコールが2馬身差をつける完勝。浦和所属ながら川崎で4連勝とした。そして臨んだ全日本2歳優駿(JpnI)は、中央勢の厚い壁に跳ね返されたが、それでも地方馬では唯一掲示板を確保する4着。7戦5勝、地方馬同士ではほぼ完璧な成績を残した。

メイドイットマム (船橋)

Made It Mum

- ◆ 2020年4月6日生まれ 牝 栗毛
- ◆ 2022年成績 / 7戦3勝
- ◆ 2022年取得賞金 / 28,286,000円
- ◆ 主な成績 / エーデルワイス賞(JpnIII)5着、東京2歳優駿牝馬1着
- ◆ 馬主 / (有)木村牧場
- ◆ 調教師 / 石井 勝男
- ◆ 生産牧場 / 新井牧場

ノヴェリスト(IRE) 黒鹿毛 2009	Monsun(GER) Night Lagoon(GER)
コマノスクアーロ 鹿毛 2008	ゼンノロブロイ コマノマコ

デビューしたホッカイドウ競馬では、JRA認定フレッシュチャレンジを勝ったのみだが、エーデルワイス賞(JpnIII)で5着と善戦。その素質は船橋に移籍して開花した。初戦の牝馬限定JRA認定競走では、好位集団から直線突き抜けて4馬身差圧勝。そして臨んだ東京2歳優駿牝馬(大井)は、粘る逃げ馬を直線半ばでとらえると、これまた4馬身差をつけた。

この年、全国を通して複数の重賞を勝った2歳牝馬は4頭いた。スティールグレイス(北海道)、ショウガタツリ(金沢)はそれぞれ出走が地元のみ。フジラブンツェル(岩手)、ラビュリントス(北海道)は、東京2歳優駿牝馬に出走したが、ともに着外。メイドイットマムは獲得したタイトルがひとつとはいえ、地方所属の2歳牝馬が最後に目指す大舞台で圧巻のパフォーマンスを見せた。



2022.10.2
ダービーグランプリ

シルトプレ (北海道)

Silt To Plait

- ◆ 2019年4月29日生まれ 牡 栗毛 ◆ 馬主：原久美子氏
- ◆ 2022年成績：7戦3勝 ◆ 調教師：米川昇
- ◆ 2022年取得賞金：50,400,000円 ◆ 生産牧場：藤原牧場
- ◆ 主な成績：北斗盃1着、北海優駿1着、ダービーグランプリ1着

ワールドエース 鹿毛 2009	ディーピンパクト マンデラ(GER)
エアディケム 栗毛 2002	フレンチデピュティ(USA) エアパッション(USA)

3歳牝馬のカテゴリーでは、ダートグレード競走の勝ち馬がいなければ、賞金レベルが高い南関東三冠戦線での活躍馬が優秀馬となることが多いが、この年の南関東は伏兵が台頭する主役不在の混戦で推移した。そして秋、地方全国交流のダービーグランプリ(盛岡)には、南関東から大挙7頭に加え、東海地区三冠馬も参戦したが、それらを寄せ付けず一騎打ちを演じたのが、北海道三冠のタイトルを分け合った2頭。三冠目の王冠賞(門別)で2着に敗れ三冠を逃していたシルトプレだったが、遠征した全国の舞台で、王冠賞で先着を許したエンリルを1馬身差でしりぞけ雪辱を果たすと同時に、3歳馬の全国の頂点に立った。ホッカイドウ競馬のシーズンを締め括る道営記念(門別)は2着だったが、ゴール前3頭の接戦で2分の1馬身差。古馬初対戦でも能力の高さを見せた。



2022.5.11
東京プリンセス賞

スピーディキック (浦和)

Speedy Kick

- ◆ 2019年3月5日生まれ 牝 栗毛 ◆ 馬主：加藤 鈴幸氏
- ◆ 2022年成績：6戦5勝 ◆ 調教師：藤原 智行
- ◆ 2022年取得賞金：112,000,000円 ◆ 生産牧場：熊谷 武氏
- ◆ 主な成績：関東オークス(JpnII)3着、桜花賞1着、東京プリンセス賞1着、戸塚記念1着、ロジータ記念1着、東京シンデレラマイル1着

タイセイレジェンド 栗毛 2007	キングカメハメハ シャープキック
デザートフラワー 栗毛 2010	サイレントディール ルーベラ

前年、2歳最優秀牝馬となったスピーディキックは、3歳初戦として臨んだ南関東一冠目の桜花賞(浦和)で圧巻のレースを見せた。浦和1600mでは不利と言われる大外11番で、後方2番手からの追走。それでも3コーナー過ぎて5番手まで位置取りを上げると、直線大外から一気に突き抜けた。東京プリンセス賞(大井)も制して4年連続で南関東二冠牝馬の誕生。中央勢相手の関東オークス(JpnII)は3着だったが、秋初戦の戸塚記念(川崎)は、東京ダービー馬も含めた牡馬を相手に3馬身差で完勝。牝馬同士のロジータ記念(川崎)は当然のように6馬身差圧勝。そして年末の東京シンデレラマイル(大井)でも中団追走から直線で突き抜け、古馬の壁もあっさり突破してみせた。3歳のこの年、重賞のみ6戦して5勝。地方馬には先着を許しておらず圧倒的な足跡を残した。



サルサディオオーネ (大井)

Salsa Dione

- ◆ 2014年5月3日生まれ 牝 栗毛
- ◆ 馬主：菅原 広隆氏
- ◆ 2022年成績：9戦2勝
- ◆ 調教師：堀 千亜樹
- ◆ 2022年取得賞金：84,850,000円
- ◆ 生産牧場：荒谷牧場
- ◆ 主な成績：さきたま杯(JpnⅢ)1着、エンプレス杯(JpnⅡ)2着、日本テレビ盃(JpnⅢ)3着、マリーンカップ(JpnⅢ)2着、スパーキングレディーカップ(JpnⅢ)3着、ビューチフルドリーマーカップ1着

ゴールドアリュール 栗毛 1999	サンデーサイレンス(USA) ニキヤ(USA)
サルサクイーン 栗毛 1999	リンドシェーパー(USA) シーサイドエンゼル

2020年、6歳になって中央から大井に移籍したサルサディオオーネは、年を重ねて毎年のように進化を続けた。その6歳時はダートグレード競走初勝利。7歳時は牡馬一線級相手にJpnⅡの日本テレビ盃(船橋)を逃げ切り勝ち。そして2022年、8歳での進化は、大井移籍後初挑戦となった短距離カテゴリーの1400m戦。牡馬の快速馬が揃ったJpnⅡのさきたま杯(浦和)でも果敢に逃げると、直線激しい競り合いをしのぎきった。この年、3着以内を外したのはJpnⅠの川崎記念(川崎)とJBCレディスクラシック(盛岡)だけ。ショウナンナデシコの壁は厚かったが、牝馬同士のJpnⅡ、JpnⅢでは2着2回、3着1回と善戦を続けた。ダートグレード通算5勝は、地方所属の牝馬では年度代表馬2度(2009、12年)のラブミーチャンと並んでタイ記録。3年連続で本賞受賞の快挙となった。

メジロゴーリキ (ばんえい)

- ◆ 2014年6月11日生まれ 牡 鹿毛
- ◆ 馬主：広瀬 豪氏
- ◆ 2022年成績：25戦3勝
- ◆ 調教師：松井 浩文
- ◆ 2022年取得賞金：16,966,000円
- ◆ 生産牧場：佐渡 孝徳氏
- ◆ 主な成績：ばんえい記念1着、ドリームエイジカップ1着

(半血)ニシキダイジン 鹿毛 2001	(半血)カゲイサム (ベルジ)ローラ
(日韓)メジロルビー 鹿毛 2004	(半血)メジロショウリ (半血)シスタークイン

スピードを競う平地の競馬に対して、パワーを競うのがばんえい競馬。より重い負担重量のレースを制してこそ価値があり、その頂点となるのが、1シーズンで1度だけ、ソリの重量1トンで争われるばんえい記念。歴代のばんえい記念勝ち馬には、軽い重量から高重量まで活躍するオールマイティなタイプもいるが、メジロゴーリキは時計の速い決着では分が悪く、時計のかかる高重量戦でこそというタイプ。それがこの年の25戦3勝という成績にも表れている。ばんえい記念初挑戦だった前年は、雨の軽い馬場で6着。この年も同じように軽い馬場ながら、第2障害の手前でじっくり溜めて仕掛けると、一気に先頭でクリア。追ってくる若い6歳2強を振り切り頂点に立った。ばんえい記念を2度制した父ニシキダイジンから受け継いだ素質が8歳にして開花した。



ショウナンナデシコ (JRA)

Shonan Nadeshiko

- ◆ 2017年2月6日生まれ 牝 栗毛
- ◆ 馬主：国本 哲秀氏
- ◆ 2022年成績：9戦4勝
- ◆ 調教師：須貝 尚介
- ◆ 2022年取得賞金：195,900,000円
- ◆ 生産牧場：天羽牧場
- ◆ 主な成績：かしわ記念(JpnI)1着、JBCレディスクラシック(JpnI)3着、エンプレス杯(JpnII)1着、レディスプレリュード(JpnII)3着、マリーンカップ(JpnIII)1着、スパーキングレディーカップ(JpnIII)1着、TCK女王盃(JpnIII)2着、クイーン賞(JpnIII)3着

オルフェーヴル 栗毛 2008	ステイゴールド オリエンタルアート
ショウナンマオ 鹿毛 2009	ダイヤモンド ショウナンハピネス(CAN)

地方・中央・海外の所属に関わらず、地方競馬で実施されたダート交流重賞で最も優れた成績をおさめた馬を表彰する本賞。ショウナンナデシコは、エンプレス杯(JpnII・川崎)でのダートグレード競走初勝利から4連勝という快進撃。その中には牡馬相手のJpnI、かしわ記念(船橋)のタイトルもあった。

この年、地方競馬でのダートグレード競走4勝は単独最多。かしわ記念(JpnI)を牝馬が制したのは、中央との交流となった1996年以降初めてのこと。また、牝馬が牡馬相手に地方競馬のGI/JpnI(2歳戦を除く)を制したのは、2015年JBCスプリント(大井)を制したコーリンベリー(JRA)以来7年ぶり、マイル以上の中長距離では03年帝王賞(大井)のネームヴァリュール(船橋)以来、じつに19年ぶりの快挙でもあった。

オメガパフューム (JRA)

Omega Perfume

- ◆ 2015年4月6日生まれ 牡 芦毛
- ◆ 馬主：原 禮子氏
- ◆ 生涯成績：26戦11勝
- ◆ 調教師：安田 翔伍
- ◆ 生涯取得賞金：752,070,000円
- ◆ 生産牧場：社台ファーム
- ◆ 主な成績：東京大賞典(GI)(2018,2019,2020,2021)、帝王賞(JpnI)(2019)

スウェプトオーヴァーボード(USA) 芦毛 1997	エンドスウィープ(USA) Sheer Ice(USA)
オメガフレグランス 鹿毛 2007	ゴールドアリュール ビューティーメイク

2018年から21年まで東京大賞典(GI)4連覇を達成したオメガパフュームが2022年秋、引退を発表。国内では史上初の快挙となった同一GI・4連覇が評価されての特別表彰馬となった。

デビューから一貫してダートを使われ、重賞初挑戦のジャパンダートダービー(JpnI)で2着。JRA阪神のシリウスステークス(GIII)で重賞初制覇を果たすと、年末には東京大賞典(GI)を制し、3歳でダートの頂点に昇り詰めた。中央でもダートGIIIで3勝を挙げたが、地方ではGI/JpnIのみ13戦して5勝、2着6回。中団・後方からロングスパートが生かせる直線の長い大井で能力を発揮し、帝王賞(JpnI)も制した。JBCクラシック(JpnI)ではJRA京都開催の18年から、19年浦和、20年大井、21年金沢と4年連続2着。3歳から7歳まで、ダートGI/JpnI戦線で中心的存在として活躍した。



最優秀勝利回数調教師賞

NAR GRANDPRIX 2022

打越 勇児

高知

生年月日：1972年11月29日
初出走：2012年4月14日
2022年成績：777戦208勝 勝率26.8%
2022年取得賞金：343,125,000円

2022年、全国で唯一200勝を超える勝ち星をマークした打越勇児調教師が、2年連続4回目の本賞受賞となった。この年の208勝は前年の206勝を上回るキャリアハイ。12年の厩舎出走から11シーズンというキャリアながら、4度の受賞は、初受賞となった2018年以降の5年間で達成したものの、2位だった20年も1位とはわずか1勝差と、近年は常にトップを見据える。

重賞ではララメダイユドルで3勝のほか、ブラックランナー、アメージングランと3頭で5勝。この年、高知で行われた古馬重賞全12レースのうち半数近くを制した。勝率26.8%も、最優秀勝率調教師賞を受賞した保利良平調教師(兵庫)の27.2%に迫るもの。厩舎一丸となって高い確率で勝ち星を重ねていくなかで、所属する宮川実騎手の最優秀勝率騎手賞との同時受賞も2年連続の快挙となった。



2022.5.31 福永洋一記念(ララメダイユドル)

主な勝ち鞍

- 御厨人窟賞(ブラックランナー)
- 二十四万石賞、福永洋一記念、黒潮マイルチャンピオンシップ(ララメダイユドル)
- 建依別賞(アメージングラン)



最優秀賞金取得調教師賞

NAR GRANDPRIX 2022

小久保 智

浦和

生年月日：1971年10月17日
初出走：2005年7月18日
2022年成績：695戦134勝 勝率19.3%
2022年取得賞金：619,562,500円

2022年の調教師取得賞金ランキングでは、2位から8位までが3億円台にひしめくなかで、小久保智調教師は前年に続いて6億円を超える断然の数字を残し、本賞は4年連続8回目の受賞となった。この年は134勝を挙げ、年間100勝超は2012年からじつに11年連続。そのうち南関東での131勝は2位に30勝差、勝利数でも圧倒的な数字を残した。カイルによる東京ダービー(大井)制覇は7年ぶり2回目。古馬ではランリョウオーが大井記念、東京記念(いずれも大井)を制した。ダノンレジーナでの他地区遠征は、佐賀、園田、名古屋とグランダム・ジャパン古馬シーズンの対象レースで3連勝を飾り、断然のポイントで女王となった。また2歳馬では、鎌倉記念(川崎)を制するなど7戦5勝のヒーローコールが2歳最優秀牡馬に選出され、23年3歳戦線での活躍にも期待がかかる。



2022.6.8 東京ダービー(カイル)

主な勝ち鞍

- 佐賀ヴィーナスカップ、兵庫サマークイーン賞、秋桜賞(ダノンレジーナ)
- 大井記念、東京記念(ランリョウオー)
- 東京ダービー(カイル) ● 鎌倉記念(ヒーローコール)



最優秀勝率調教師賞

NAR GRANDPRIX 2022

保利 良平

兵庫

生年月日：1978年6月27日
初出走：2013年12月10日
2022年成績：320戦87勝 勝率27.2%
2022年取得賞金：172,555,000円

2013年12月に35歳という若さで厩舎を開業した保利良平調教師は、ほぼ毎年のように勝ち星を伸ばし、22年にはキャリアハイの87勝をマーク。兵庫リーディングでは、前年60勝での8位から一気にトップに立った。さらに数字を伸ばしたのが27.2% (320戦87勝) という勝率で、21年の18.8% (320戦60勝) からジャンプアップ。さらに連対率(50.3%)で50%を超えたのはひとりだけ。勝利数の全国リーディングでは27位ながら、勝率では全国1位となった。代表馬は、この年3歳でデビューしたエコクラージュ。デビューから6連勝で園田オータムトロフィー(園田)を制し、秋の鞍(名古屋)は3着だったが、楠賞(園田)も勝って重賞2勝。負けたのは名古屋遠征だけで、地元園田・姫路では7戦全勝。出走するからには勝つ。その成績が、厩舎の勝率の高さを物語っている。



2022.11.2 楠賞(エコクラージュ)

主な勝ち鞍

- 園田オータムトロフィー、楠賞(エコクラージュ)



最優秀勝利回数騎手賞

NAR GRANDPRIX 2022

吉村 智洋

兵庫

生年月日：1984年12月26日
初騎乗：2002年4月17日
2022年成績：1,205戦349勝 勝率29.0%
2022年取得賞金：557,744,500円

近年兵庫で不動のリーディングとなっている吉村智洋騎手は、296勝を挙げた2018年に初めて全国のトップに立ち、2019年以降は毎年300勝台を継続してきた。22年にマークした349勝は、これまで5度、本賞を受賞している森泰斗騎手(船橋)に31勝差をつけ、4年ぶり2回目の受賞となった。この年、重賞でも地元園田で6勝、佐賀に遠征して2勝と活躍したが、それ以上に注目されたのは固め勝ち。兵庫ではこれまで7名が1日最多の6勝という記録を達成。そのうち吉村騎手を含め3名が3度達成していたが、吉村騎手はこの年、2月15日、4月6日、10月5日にも1日6勝を記録し、単独最多の通算6回となった。2002年のデビューから21年のキャリアで地方競馬通算2975勝。年明けには通算3000勝も達成している。



2022.9.8 園田オータムトロフィー(エコクラージュ)

主な勝ち鞍

- 新春賞、はがくれ大賞典(エイシンニシバ) ● 摂津盃(シエダル)
- 園田オータムトロフィー、楠賞(エコクラージュ)
- 兵庫ゴールドカップ(コパノフィードリング) ● 園田ジュニアカップ(スマイルミーシャ)



最優秀賞金取得騎手賞

NAR GRANDPRIX 2022

矢野 貴之

—— 大井 ——

生年月日：1984年8月3日
初騎乗：2002年4月12日
2022年成績：1,382戦284勝 勝率20.5%
2022年取得賞金：1,121,388,000円

2002年に高崎競馬でデビューした矢野貴之騎手は、高崎廃止後の2005年に大井に移籍。14年の99勝から15年には204勝と一気に勝ち星を伸ばし頭角を現した。17年以降は毎年200勝超をマークし、全国5位以内をキープする活躍を続けてきた。22年も勝利数ではキャリアハイの284勝をマークするも全国4位、南関東2位だったが、賞金では自身初の10億円を超える11億2138万8000円を獲得。前年まで7年連続で本賞を受賞していた森泰斗騎手(船橋)を1億1千万円余り上回っての初受賞となった。

この年、サルサディオオーネでのさきたま杯(JpnⅡ)をはじめ全国で重賞11勝という活躍が、その取得賞金を押し上げた。NARグランプリは、20年にJBCスプリント(JpnⅠ)を制したサブジュニアの活躍で殊勲騎手賞を受賞して以来の栄誉となった。



2022.11.3 岩手県知事杯OROカップ(アトミックフォース)

主な勝ち鞍

- さきたま杯(JpnⅡ)、ビューチフルドリーマーカップ(サルサディオオーネ)
- 京成盃ランドマイルズ、サンタアニタトロフィー、ゴールドカップ(スマイルウィ)
- 埼玉新聞栄冠賞、勝島王冠(ライトウォーリア)
- 岩手県知事杯OROカップ(アトミックフォース)



最優秀勝率騎手賞

NAR GRANDPRIX 2022

宮川 実

—— 高知 ——

生年月日：1982年2月10日
初騎乗：1999年10月2日
2022年成績：422戦136勝 勝率32.2%
2022年取得賞金：243,895,000円

前年、28.3%という勝率で本賞初受賞となった宮川実騎手は、さらにその数字を32.2%に上げ、2年連続での受賞となった。この年、勝率30%超、連対率50%超(51.4%)は、いずれも全国で唯一。ほぼ3回に1回は勝ち、2回に1回は2着以内に入るという、抜群に安定した数字を残した。

本賞は毎年30%前後での争いとなるが、32.2%は例年との比較でも優秀なもの。この年に挙げた136勝は、キャリアハイの152勝(2018年)には及ばなかったものの、高知リーディングでは初めてトップに立った。この年、高知の古馬戦線の中心的存在となったララメダイユードルでは、重賞3勝を含め7戦6勝。同馬を管理し、所属厩舎でもある打越勇児調教師の最優秀勝利回数調教師賞と2年連続で同時受賞となった。



2022.5.31 福永洋一記念(ララメダイユードル)

主な勝ち鞍

- 土佐春花賞(マリンスカイ)
- 御厨人窟賞(ブラックランナー)
- 二十四万石賞、福永洋一記念、黒潮マイルチャンピオンシップ(ララメダイユードル)



優秀新人騎手賞

NAR GRANDPRIX 2022

塚本 征吾

愛知

生年月日：2004年2月20日
初騎乗：2021年4月19日
2022年成績：1,148戦84勝 勝率7.3%
2022年取得賞金：77,692,500円

デビュー2年目を迎えた塚本征吾騎手はこの年、1148戦84勝という成績で、本賞の対象となるデビュー2年以内の騎手では騎乗数・勝利数ともに最多の数字を残した。勝利数もさることながら印象的だったのは、3歳馬コンビノでの活躍。塚本騎手が騎乗し5連勝として臨んだ岐阜金賞(笠松)では、結果的に東海地区三冠馬となったタニノタビトとの一騎打ちには届いたが、それでもアタマ差で食い下がった。その後、秋の鞍(名古屋)でも2着、古馬重賞初挑戦となったゴールド争覇(名古屋)でも3着と善戦し、年末には古馬A1特別を制した。そのコンビノを含め、デビュー2年目ながら名古屋・笠松で重賞8戦に騎乗。いずれも単勝人気順より上の着順に入り、そのうち7戦で掲示板内を確保と、ファンの期待以上の善戦をみせた。



2022.8.2 けやき杯(コンビノ)

主な勝ち鞍

- けやき杯、タンザナイトオープン(コンビノ)



優秀女性騎手賞

NAR GRANDPRIX 2022

宮下 瞳

愛知

生年月日：1977年5月31日
初騎乗：1995年10月22日
2022年成績：918戦93勝 勝率10.1%
2022年取得賞金：82,709,000円

2011年に一度は引退し、約5年のブランクを経て16年8月に現役復帰した宮下瞳騎手。女性騎手減量の恩恵もあるとはいえ、近3年の成績が素晴らしい。20年に自身初の年間100勝超となる105勝を挙げると、その後も90勝台をキープ。22年も女性騎手最多の93勝を挙げ、重賞勝利も女性騎手ではこの年ただひとり。優秀女性騎手賞は3年連続で、じつに13回目の受賞。特に復帰後は、フルシーズン騎乗した17年以降の6年で、怪我による休養があった19年を除いて5度の受賞となった。

先の引退前から保持していた日本における女性騎手の通算勝利数の記録を更新し続け、10月14日には地方競馬通算1100勝に到達。1995年のデビューから、空白期間も含め27年の時を経て進化を続けている。



主な勝ち鞍

- ベイスプリント(エッシャー)



2022地方競馬ジョッキーズ
チャンピオンシップ 優勝者

ベストフェアプレイ賞

NAR GRANDPRIX 2022

岡部 誠

愛知

生年月日：1977年3月3日
初騎乗：1994年10月16日
2022年成績：1,235戦299勝 勝率24.2%
2022年取得賞金：278,605,000円

進路関係無制裁の騎手の中で勝利回数をもっとも多かった騎手(年間100勝以上)が表彰される本賞は、岡部誠騎手が2年連続3回目の受賞。

この年に挙げた299勝は、前年を上回るキャリアハイ。2017年以降は全国リーディングで毎年ひと桁順位をキープし、17年2位、21年3位、22年3位など、惜しくもトップに立てていないのは、地区ごとの開催日数や騎乗数の違いによるものと思える。現在では交流重賞だけでなく、他地区重賞のスポット騎乗など、さまざまな環境でしのぎを削るような機会も多いなか、進路関係の制裁ゼロは、高い騎乗技術の裏付けとなるものだろう。この年、地方競馬ジョッキーズチャンピオンシップで優勝し、ワールドオールスタージョッキーズに出場(6位)。22年末での地方競馬通算4654勝は、現役4位、歴代8位。もはやレジェンドと呼べる実績を残している。



2022.6.7 東海ダービー(タニノタビト)

主な勝ち鞍

- 駿蹄賞、東海ダービー、岐阜金賞(タニノタビト)
- 名古屋記念、マーチカップ(ナムラマホーホ)
- オグリキャップ記念(トーセンブル)



特別賞

NAR GRANDPRIX 2022

戸部 尚実

愛知

生年月日：1963年8月27日
初騎乗：1983年4月20日
通算成績：21,238戦3,018勝 勝率14.2%
通算取得賞金：2,796,181,000円
地方重賞通算：76勝※

2022年1月17日、名古屋競馬場で戸部尚実騎手が地方競馬通算3000勝を達成。1983年4月のデビューから、通算1000勝達成(00年12月)までは17年8カ月、2000勝達成(11年12月)までは11年、そして3000勝達成までは10年1カ月。着実に勝ち星を積み重ねての大台到達となった。

東海菊花賞(名古屋)連覇やオグリキャップ記念(笠松)などを制したマルブツセカイオー、駿蹄賞を制するなど通算11戦10勝のリーダーズボードなどの主戦として活躍した。3000勝は、目標としていた区切りの数字。調教師という新たな目標に向け、新・名古屋競馬場のオープンから3カ月後、7月8日の騎乗を最後に鞭を置いた。そして12月1日付の調教師免許に合格。立場を変えて第二の競馬人生を歩み始めている。



2016.12.31 東京2歳優駿牝馬(ピンクドッグウッド)

主な勝ち鞍

- 1994年全日本サラブレッドカップ、1995年オグリキャップ記念、1994、1995年東海菊花賞(マルブツセカイオー)
- 2011年東海ダービー(アムロ) ● 2014年駿蹄賞(リーダーズボード)
- 2016年東京2歳優駿牝馬(ピンクドッグウッド)

※いずれも騎手時代の成績

佐々木 竹見

川崎・引退

特別賞

NAR GRANDPRIX 2022

生年月日：1941年11月3日

初騎乗：1960年6月20日

通算成績：39,080戦7,153勝

1960年6月、18歳で川崎から騎手デビューした佐々木竹見氏は、5年目の64年には320勝を挙げ全国リーディングのトップに立ち、66年には年間505勝という世界記録(当時)を達成。全国リーディングは64～77、80年と14年連続15回。通算勝利数では無人の野を行くがごとく勝利を重ね、2001年7月8日のラストランまで足掛け42年の現役生活で、地方競馬通算7151勝(ほかに中央2勝)。その記録は的場文男騎手(大井)に更新されたとはいえ、現役時の傑出した活躍は色褪せるものではない。引退後は後進の指導にあたり、また川崎競馬場で実施されている騎手招待競走「佐々木竹見カップ・ジョッキーズグランプリ」が20回目の節目を迎えるなど、長年に渡る地方競馬への多大なる貢献に対し、現役時の1990(特別功労賞)、98、2000年に続き、4回目の特別賞表彰となった。



1998.7.1 地方競馬通算7000勝(カネシヨウヤシマ)



2018.1.30 佐々木竹見カップ ジョッキーズグランプリ

各地の優秀者

3部門の所属別優秀成績者

調教師

	勝利回数	収得賞金(円)	勝率(%)
ばんえい	坂本 東一 129	坂本 東一 92,432,500	服部 義幸 14.0
北海道	田中 淳司 148	田中 淳司 297,790,000	田中 淳司 22.1
岩手	板垣 吉則 105	板垣 吉則 135,785,000	板垣 吉則 20.9
浦和	小久保 智 134	小久保 智 619,562,500	小久保 智 19.3
船橋	新井 清重 102	川島 正一 368,391,500	佐藤 裕太 18.9
大井	藤田 輝信 74	藤田 輝信 348,625,000	藤田 輝信 19.4
川崎	高月 賢一 73	内田 勝義 311,855,000	池田 孝 18.6
金沢	金田 一昌 137	金田 一昌 103,046,000	佐藤 茂 20.2
笠松	笹野 博司 170	笹野 博司 108,462,000	笹野 博司 20.6
愛知	角田 輝也 162	角田 輝也 139,527,000	川西 毅 21.8
兵庫	保利 良平 87	新子 雅司 302,045,000	保利 良平 27.2
高知	打越 勇児 208	打越 勇児 343,125,000	打越 勇児 26.8
佐賀	山田 徹 116	山田 徹 103,248,000	鮫島 克也 26.8

騎手

	勝利回数	収得賞金(円)	勝率(%)
ばんえい	鈴木 恵介 198	鈴木 恵介 98,414,500	鈴木 恵介 18.3
北海道	落合 玄太 145	石川 倭 217,085,000	石川 倭 18.5
岩手	山本 聡哉 221	山本 聡哉 225,071,000	山本 聡哉 23.3
浦和	福原 杏 48	福原 杏 132,356,000	福原 杏 6.8
船橋	森 泰斗 318	森 泰斗 1,007,201,500	森 泰斗 21.6
大井	矢野 貴之 284	矢野 貴之 1,121,388,000	矢野 貴之 20.5
川崎	町田 直希 127	町田 直希 428,639,500	山崎 誠士 13.2
金沢	吉原 寛人 149	吉原 寛人 222,277,000	吉原 寛人 28.3
笠松	渡邊 竜也 189	渡邊 竜也 136,143,000	渡邊 竜也 20.0
愛知	岡部 誠 299	岡部 誠 278,605,000	岡部 誠 24.2
兵庫	吉村 智洋 349	吉村 智洋 557,744,500	吉村 智洋 29.0
高知	宮川 実 136	宮川 実 243,895,000	宮川 実 32.2
佐賀	山口 勲 148	山口 勲 155,887,500	山口 勲 20.8

※成績は、2022年の地方競馬・中央競馬の総計。
 ※赤字は、その部門の最優秀者を示す。
 ※勝率は、【騎手】騎乗回数240回以上
 【調教師】出走回数160走以上をそれぞれ対象としている。
 ※勝利数が同数の場合、2着数が多い者を上位とする。



NAR グランプリ 2022

優秀馬選定委員

作家	亀和田 武
馬事リポーター	後藤 正俊
公益財団法人 競走馬理化学研究所	生野 等
馬事リポーター	赤見 千尋
フリーアナウンサー	矢野 吉彦
全国公営競馬専門紙協会	小山内 完友
全国公営競馬専門紙協会	對馬 大樹
東京地方競馬記者クラブ	牛山 基康
東海地方競馬記者クラブ	西尾 敦
関西地方競馬記者クラブ	蔵田 成樹
公益社団法人 日本軽種馬協会	成田 正一
全国公営競馬主催者協議会	秋田 政治
日本中央競馬会	橋本 真一
地方競馬全国協会	相川 貴志
地方競馬全国協会	川相 篤士

※年度代表馬及び各部門の最優秀馬は、ダート交流重賞・広域交流競走の優勝馬・着順上位馬等を候補馬として、「優秀馬選定委員会」により選定されたものです。(敬称略・順不同)